

新たな感染症とともに



保護者の皆様へ

他の都道府県での子どもや教師の感染が、連日報道されています。中には、不安をあおるようなコメントもみられ、学校生活の制限が段階的に解除の方向に進んでいくことに、不安を抱かれることもあるかと思います。

しかし、厳しい感染対策による制限の多い学校生活は、子どもたちの心身も教育も破綻させる危険性があります。実際に、小児医療現場では、子どもたちへの影響を感じ始めています。

一方、最近の海外医学論文では、「パンデミック(世界的大流行)の要因は、子どもたちではない。学校や保育施設の再開が、高齢者の死亡率に影響を与える可能性は低い」という論調が複数見られるようになりました。

制限の解除は、ゼロリスクではありません。しかし、不安だからといって、余計な我慢を子どもたちにさせ続けてはいけません。国内外の最新情報をもとに、学校と協力して柔軟に対応していくことでリスク低減を目指しています。引き続き、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議

座長 種 市 尋 宙



皆様の疑問や不安にお答えします ※Q1～Q16は、検討会だより VOL.1～4に掲載されています。

Q17 「密閉・密集・密接」を避ける「3密回避」の対策をとっていると思いますが、「ゼロ密」になっていないので心配です。全国で感染者が増えているのに、6月の学校再開時の対策に戻さないのですか？

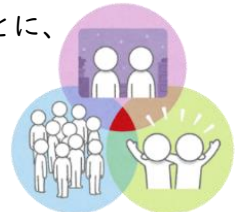
① 感染対策は、「**3つの密が重ならないようにすること**」が重要であり、「ゼロ密」でなければならないわけではありません。

3つの密（密閉・密集・密接）が重なると、集団感染（クラスター）が起きやすくなるため、これらが重ならないよう、感染対策を講じなければなりません。しかし、感染リスクを下げることはばかりに気を取られてしまうと、それ以外のリスクを見落とすことにもなりかねません。

学校や学級はそもそも密集空間なので、6月の学校再開時は、教室を2つに分ける方法も用いられました。しかし、教育の面では課題も多く、子どもたちに手洗いや咳エチケットの励行等、感染予防の習慣が身に付いた段階で、残りの2密（密閉・密接）を避けることに、対策の重点を置く学校が多くなりました。

●密閉回避⇒窓や扉を開けて換気をし、閉鎖空間にしない。

●密接回避⇒人との距離を取るよう、保健指導や環境整備を行う。



② 「密接」は、**人との距離の近さが問題なのではなく、そのことによって飛沫（つば）を浴びるリスクが高くなるのが問題です。**

子どもたちは、人との関わりの中で信頼関係を築き、成長していきます。わざわざ目の前にいる友だちと距離をとらなければならない学校生活は、大きなストレスになっていました。

そこで、学校生活に慣れてきたタイミングで、「マスクを着けていれば、人に飛沫を飛ばすリスクが低いこと」を説明し、少しずつ人との距離も縮めていきました。学校ではマスクを着けて友だちとペアやグループになり、互いの考えを聞きながら学ぶ学習スタイルも再開しました。

③ マスクを着ける大きな理由は、周囲の人に飛沫を浴びせないためです。

新型コロナウイルス感染症は、飛沫感染と接触感染の主に2つの経路で感染しますが、その9割が飛沫感染だと考えられています。

無症状で感染している可能性を考えると、「屋内で、近くにいる人と対面で話す場合」は、マスクの着用が必要です。

しかし、屋内でも「しゃべらない時」には飛沫は飛ばないし、「周りに人がいない時」は飛んでもかかる心配がないので、静かにテストを受けている時などはマスクを外していても問題はないのです。

屋内・近距離・飛沫



マスクが必要



気温が上がれば、熱中症のリスクも考えなければいけません。
まだしばらく感染予防対策が必要な日々が続きます。マスクが必要な
場面を自分で判断して、適切に着けたり外したりできるように
なれば、快適な時間を過ごすことができます。

Q18 遊具を使って遊んでもよいのですか？

臨時休業期間中、感染リスクを考慮して、公園の閉鎖や遊具の使用禁止が相次ぎました。閉鎖されていない近所の公園で子どもたちが遊んでいると、「密集・密接になるのに、公園で遊んでもいいのか」「無症状感染者の手から、遊具にウイルスが付着していたらどうするのか」というご心配の声も、学校や教育委員会に寄せられました。

学校では、共用の物を触った後は、しっかり手洗いをすれば、遊具の使用も問題ないと判断しました。子どもたちは、遊びを通して多くのことを学んでいるので、放課後も公園で友だちといっぱい遊んでほしいと思います。

「外から帰ったらすぐ手洗い」の習慣を、ご家庭でも身に付けてください。
公園に水道があれば、まずはそこで手洗いをする習慣を付けるのもよいことです。



7月7日の本検討会議では、合唱や合奏についても、「距離」「換気」「時間」「手洗い」等の注意事項を示し、各校の実態にあわせて再開することに問題はないと判断しました。

知恵を絞り工夫することで、新しいスタイルでの学習発表会や合唱コンクールが開催できないか各校では新たな模索が始まっています。

現在、マスク着用の制限はあるものの、インフルエンザ流行時に近いレベルまで、日常生活は戻りつつあります。今後はインフルエンザ流行時と同様に、感染状況に合わせて、感染対策を強化したり緩めたりしながら、「富山市立学校の新しい生活様式」を作っていくことになっていきますが、6月当初の対策に戻る必要はないと考えています。子どもたちが、「新しい生活も悪くないね」と思えるように検討を続けていきます。

「お大事に」を、一番に伝えられる社会に…

未知のウイルスの突然の流行は、世界中をパニックに陥れました。「次は自分が感染するのではないか」「この先の生活や子どもの学校は、どうなっていくのだろう」という不安がぬぐえず、心の余裕もなくなっていました。

誰かが病気になったとき、「誰か」を詮索し、真偽のほどが分からない情報に振り回される姿を、子どもには見せたくないし、見せないように大人が冷静になる必要があると思います。

「お大事に。早くよくなってね」

「ありがとう。元気になったよ」

インフルエンザの時と同じように、大人も子どもも、笑顔で話せる社会になりますように。



このリーフレットの内容については、必要に応じて改定することもあります。
【事務局】富山市教育委員会 学校保健課(TEL 443-2136)